

平成 17 年度～令和 6 年度 ヒナイ川・西田川利用実態調査報告書



令和 7 年 3 月 2 8 日

九州森林管理局 計画保全部

西表森林生態系保全センター

ヒナイ川・西田川利用実態調査について

1 はじめに

西表島には自然体験型ツアーの参加を目的に毎年多くの観光客が訪れている。

当センターでは、自然体験型ツアーが盛んに行われているヒナイ川・西田川における周辺国有林の利用実態の把握を目的として、ツアー実施事業者の協力を得て現地での聞き取り調査を実施している。

今回、平成17年8月から令和6年12月まで実施してきたヒナイ川及び西田川の利用状況調査の結果を取りまとめることとする。

2 調査方法

(1) 調査地

ヒナイ川ではピナイサーラの滝から数百m離れたカヌー係留地点、西田川ではサンガラの滝で調査を実施した(図1、写真1・2)。



(図1) 調査地位置図



(写真1) ヒナイ川調査地点



(写真2) 西田川調査地点(サンガラの滝)

(2) 調査の内容

ツアーガイドへの聞き取り調査をヒナイ川は月1回、西田川は2か月に1回の頻度で実施し(写真3・4)、以下の内容を聞き取り調査表(図2)へ記入した。

- ・カヌー係留地点に到着した時間及び出発する時間
(西田川ではサンガラの滝に到着した時間及び出発する時間)
- ・業者名
- ・ツアーの種類(1日ツアー・半日ツアー)
- ・出発地及び目的地
- ・カヌー艇数(1人乗・2人乗・3人乗り以上、種類別に集計)
- ・ツアー客数と内訳(性別と居住地別に集計 八重山・県内・県外・海外の4区分)

ヒナイ川・西田川 利用実態調査 ツアー聞き取り調査表										※レンタルの場合、業者名の聞き取りを忘れずに	
平成 29 年 6 月 29 日(木) 天候(晴れ) 場所(ヒナイ川 西田川)										10時05分~14時45分	
時刻	10時13分			業者名			ばいしーず			帰所時間	
ツアー種類	半日・一日									11時43分	
ルート	ヒナイ川・西田川のみ (出発地 → ルート: マーレ → 滝下)										
ガイド数	1名										
ツアー参加者	県外	県内	八重山	国外	計		1人乗	2人乗	計		
・	男	2			2	カヌー種類	5	1	6		
カヌー艇数	女	4			4						
	計	6			6	計	5	1	6		
備考											
時刻	10時25分			業者名			サニーデイ			帰所時間	
ツアー種類	半日・一日									14時15分	
ルート	ヒナイ川・西田川のみ (出発地 → ルート: マーレ → 滝上下)										
ガイド数	1名										
ツアー参加者	県外	県内	八重山	国外	計		1人乗	2人乗	計		
・	男	1		2	3	カヌー種類	1	3	4		
カヌー艇数	女	1		2	3						
	計	2		4	6	計	1	3	4		
備考											

(図2) 利用実態調査ツアー聞き取り調査表



(写真3) ヒナイ川での入込調査



(写真4) 西田川での入込調査

3 調査結果

(1)ヒナイ川

ア. 利用者数の推移

ヒナイ川ではこれまで 232 回の調査を実施しており、聞き取りを行ったツアーの数は 2,919 組、確認したカヌーの数は 10,631 艇、利用者の数(ガイド除く)は 10,954 名であった(表1)。

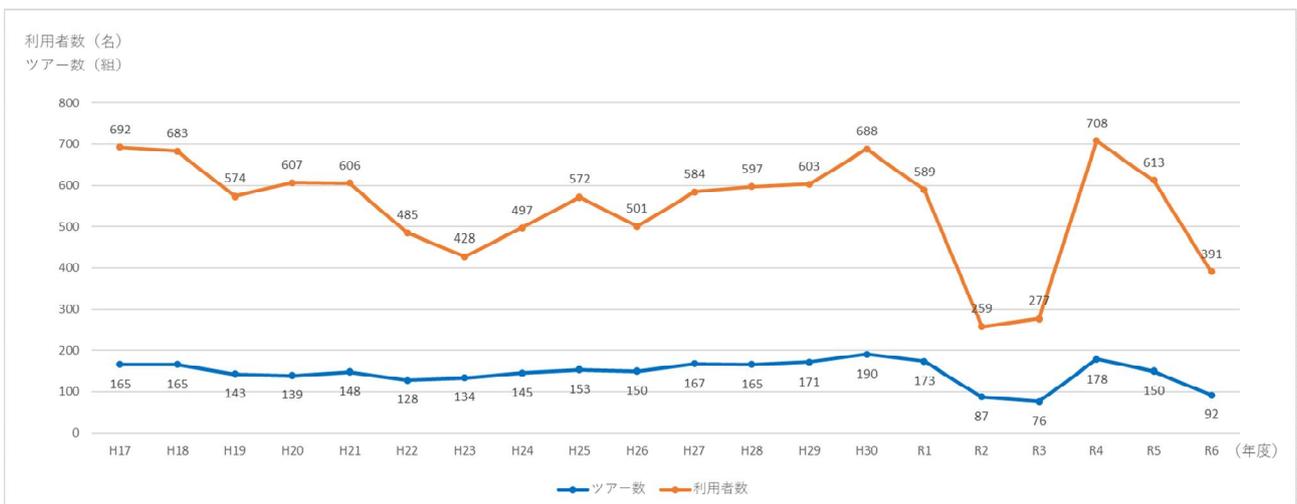
調査年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
ツアー数	165	165	143	139	148	128	134	145	153	150	167	165	171	190	173	87	76	178	150	92	2,919
カヌー艇数	666	648	584	576	636	521	465	511	540	488	583	584	589	657	575	262	243	615	545	343	10,631
利用者数	692	683	574	607	606	485	428	497	572	501	584	597	603	688	589	259	277	708	613	391	10,954

(表1)ヒナイ川の利用状況

ツアー数及び利用者数の推移についてグラフ1に示した。

ツアー数は調査開始当初から令和元年までほぼ横ばいで推移し、令和2年度から令和3年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したが、令和4年度以降はコロナ禍以前の水準にまで回復した。

利用者数は平成23年度までは減少傾向が見られるが、平成24年度以降は増加に転じ、平成30年度は最も利用者数が多かった平成17年度に次ぐ人数にまで増加している。その後、令和2年度から令和3年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少するが、令和4年度は大幅増に転じ、平成17年度の利用者数を超え過去最高の値となった。これは利用者が増える夏休み期間中に新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたこと、令和3年7月26日に西表島が「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」としてユネスコ世界自然遺産に登録されたことによるものと考えられる。令和5年度の利用者数についても新型コロナウイルス感染症に関する規制が緩和されたことから高水準で推移した。



(グラフ1) ツアー数及び利用者数の推移

イ. 月ごとの利用状況

これまでの調査結果を月ごとに集計したものを以下に示した(表2)。

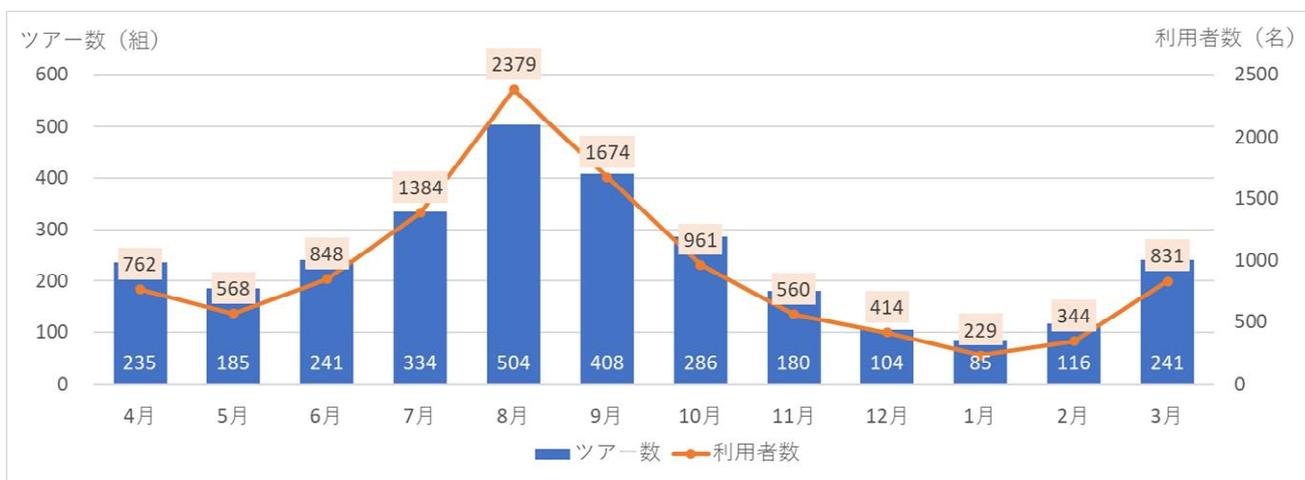
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ツアー数	235	185	241	334	504	408	286	180	104	85	116	241	2,919
カヌー艇数	783	599	851	1,292	2,090	1,604	968	568	402	261	364	849	10,631
利用者数	762	568	848	1,384	2,379	1,674	961	560	414	229	344	831	10,954
ツアー平均人数	3.2	3.1	3.5	4.1	4.7	4.1	3.4	3.1	4.0	2.7	3.0	3.4	3.8

(表2) 月ごとの利用状況集計結果(ヒナイ川)

a. 利用者数およびツアー数

ツアー数・利用者数ともに8月が最も多く、ツアー数は 504 組、利用者数は 2,379 名であった。次いで9月、7月の順で多くなり、夏休み期間に利用者が集中する傾向にあった(グラフ2)。

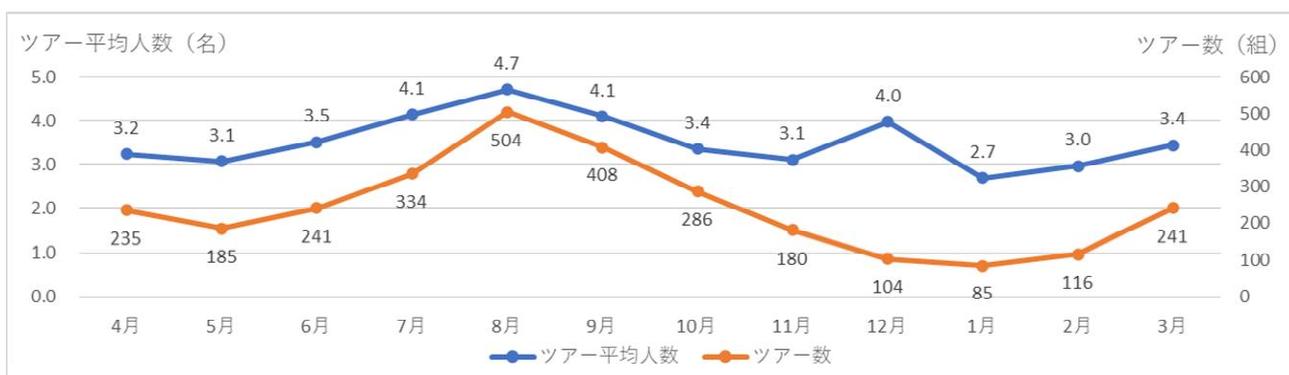
また、ツアー数・利用者数ともに最も少なくなるのは1月であり、ツアー数は 85 組、利用者数は 229 名であった。12月から2月にかけては利用者数が少なくなっているが、これは北風が強く吹き実際の気温よりも寒く感じられる西表島の冬の気候によるものと考えられる。



(グラフ2) 月ごとの利用者数およびツアー数

b. ツアー数及びツアー平均人数

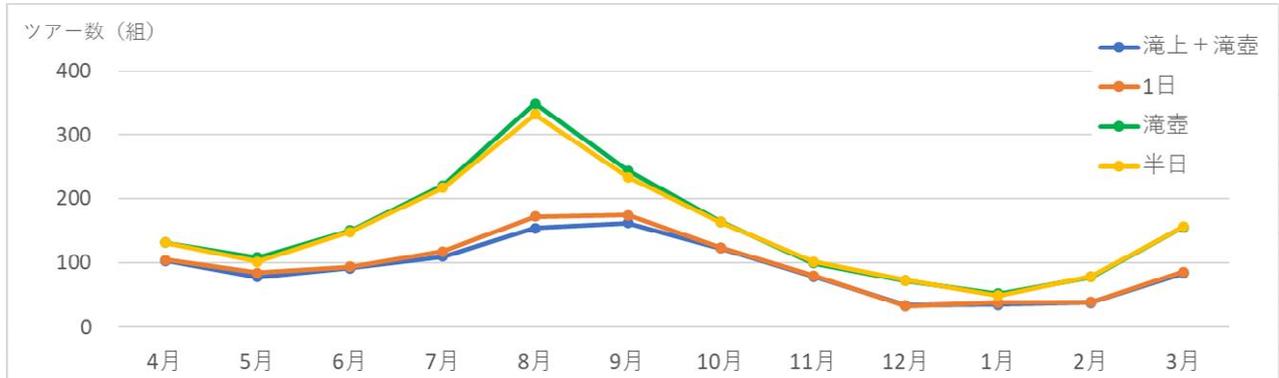
ツアー平均人数は最大となる8月が 4.7 人、最小となる1月が 2.7 人であった。12月についてはツアー平均人数が大きくなっているが、これは修学旅行等で 1 組当たりの人数が増えたためと考えられる(グラフ3)。



(グラフ3) ツアー数とツアー平均人数

c. ツアーの種別と目的地

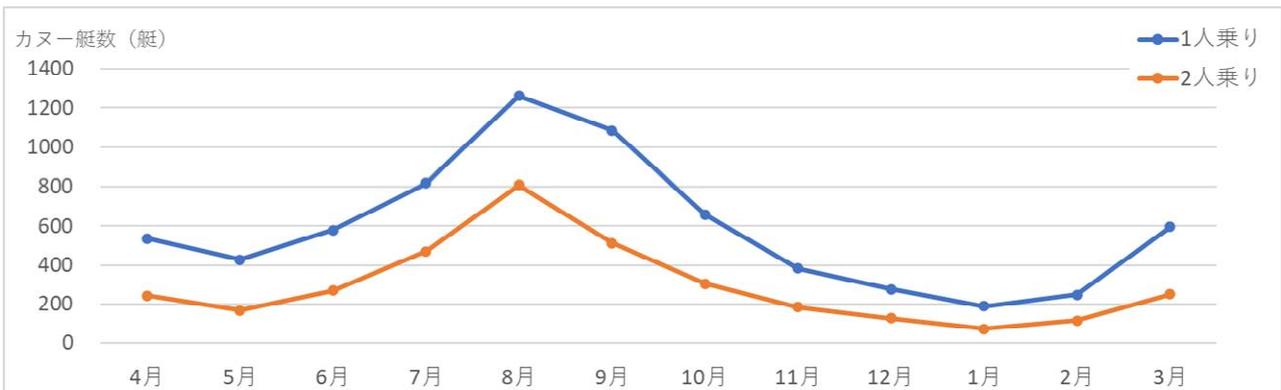
半日ツアーと滝壺へ向かうツアー、1日ツアーと滝上と滝壺の両方へ向かうツアーの数はほとんど一致していた。また、1日ツアーと半日ツアーの数を比較すると、半日ツアーのほうが時期による変動が大きく、特に8月は大きく増加していた(グラフ4)。



(グラフ4) ツアーの種別と目的地

d. カヌーの種類

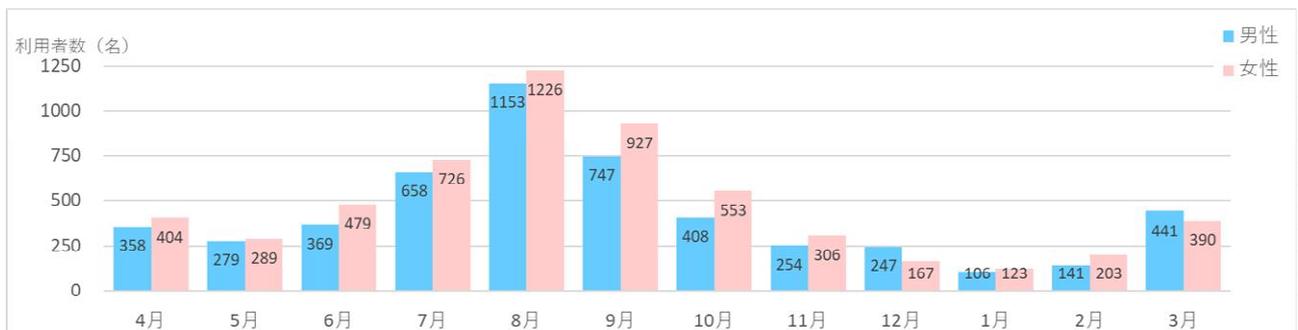
1人乗り・2人乗りのカヌーの数についてグラフ5に示した。ヒナイ川では年間を通じて1人乗りカヌーの方が多かった。また、1人乗り・2人乗りともに同じような推移をたどっており、どちらかの数だけが大きく変動することはなかった。



(グラフ5) カヌーの種類別

e. 利用者別内訳(性別ごと)

月ごとの利用者を男女別に集計したものをグラフ6に示した。利用者のうち、男性は5,161名、女性は5,793名であった。9月~11月で特に女性の割合が多く、12月は男性の割合が多かったが、それ以外の月は明確な差は現れなかった。



(グラフ6) 男女別の利用者数

f. 利用者別内訳(居住地別)

利用者数について、居住地別に集計したものを以下に示した(表3)。

沖縄県外からの利用者は 10,187 名で全利用者の約 93%を占めていた。沖縄県内の利用者は 237 名、八重山の利用者は 138 名、国外の利用者は 392 名であった。

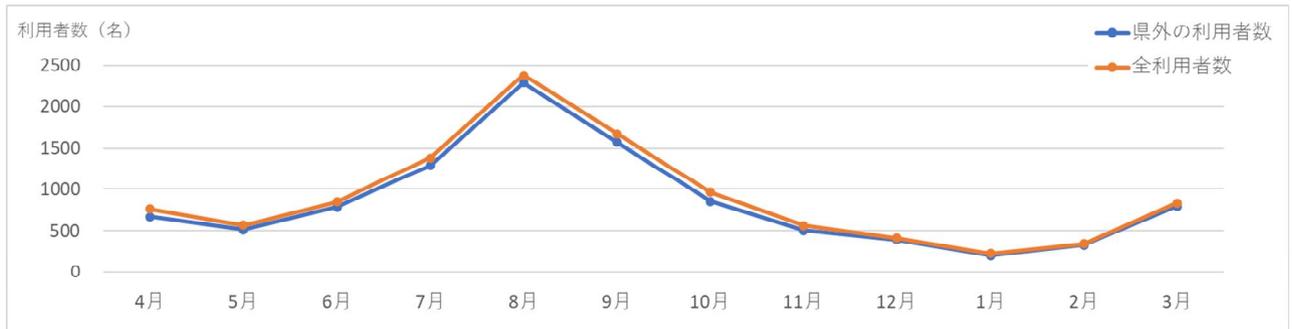
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	県外	667	513	782	1,289	2,287	1,572	851	502	393	205	332	794	10,187
	県内	26	9	23	24	31	45	26	16	9	2	6	20	237
	八重山	16	5	2	14	21	16	27	6	6	13	4	8	138
	国外	53	41	41	57	40	41	57	36	6	9	2	9	392
	計	762	568	848	1,384	2,379	1,674	961	560	414	229	344	831	10,954

(表3)居住地別の利用者数集計結果

g. 利用者別内訳(県外)

県外の利用者数の月ごとの傾向について以下に示した(グラフ7)。県外の利用者については利用者のうちの約 93%を占めており、グラフ2で示した利用者数の傾向とほとんど一致していた。

県外利用者が利用者のほとんどを占めている理由として、利用者はカヌーや滝遊びなどのアクティビティを体験できるツアーの参加者であり、西表島ではこれらのツアーが充実していることが要因ではないかと考えられる。



(グラフ7) 県外利用者の月ごとの傾向

h. 利用者別内訳(その他)

県内・八重山・国外の利用者の月ごとの傾向について以下に示した(グラフ8)。

県内の利用者については9月に集中していたが、八重山及び国外の利用者については特定の月への集中はなく、沖縄県の人たちは夏場に海水浴をすることが少ないことが影響していると考えられる。国外の利用者については県内・八重山の利用者が少ない4月~6月の間も比較的多く訪れており、これは日本と祝祭日が異なるためであると考えられる。



(グラフ8)居住地別の利用者数

ウ. カヌー係留時間と係留数の時間ごとの推移

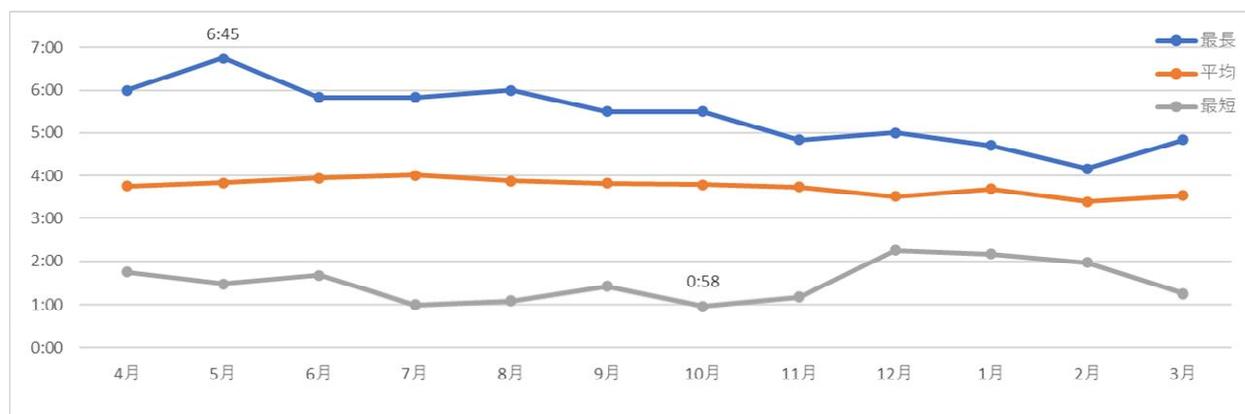
ヒナイ川ではカヌーの係留時間について平成 21 年度から調査を実施している(表4)。聞き取りを行った 2,919 組のうち、到着と離脱の時間を確認できたのは 1,845 組で、その内訳は半日ツアーが 1,245 組、一日ツアーが 600 組であった。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1日ツアー	最長	6:00	6:45	5:50	5:50	6:00	5:30	5:30	4:50	5:00	4:42	4:10	4:50	6:45
	平均	3:45	3:50	3:56	4:00	3:52	3:49	3:47	3:43	3:30	3:41	3:23	3:32	3:45
	最短	1:45	1:28	1:40	1:00	1:05	1:25	0:58	1:10	2:15	2:10	1:58	1:15	0:58
半日ツアー	最長	2:40	2:22	5:00	4:00	3:30	4:31	3:10	3:00	3:02	2:30	2:13	2:35	5:00
	平均	1:36	1:29	1:46	1:51	1:47	1:42	1:35	1:36	1:36	1:22	1:27	1:23	1:38
	最短	0:40	0:25	0:55	0:35	0:50	0:50	0:35	0:30	0:55	0:35	0:35	0:47	0:25

(表4)ヒナイ川におけるカヌーの係留時間

a. 1日ツアー

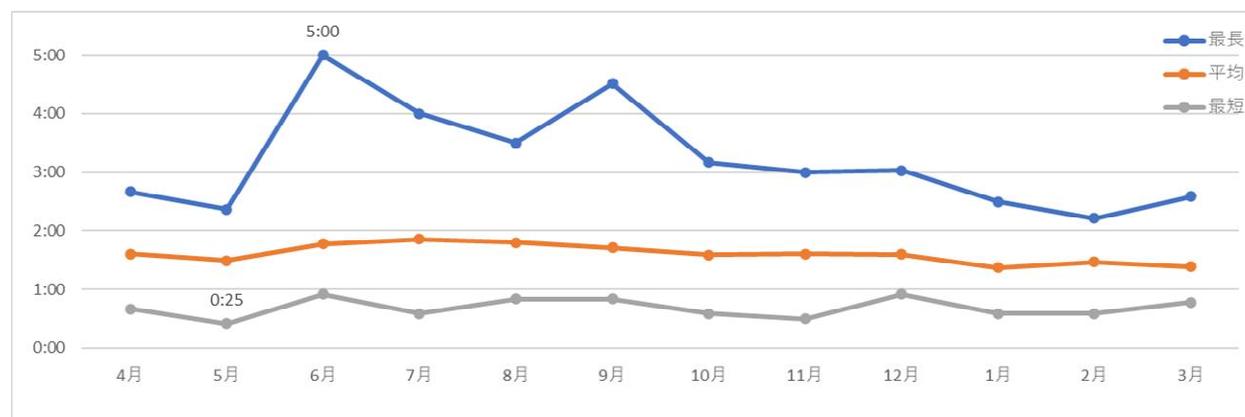
1日ツアーのカヌー係留時間について以下に示した(グラフ9)。最長が5月の6時間 45 分、最短が10月の58分であった。1日ツアーではピナイサーラの滝上と滝壺へ向かうコースが組みまれており、平均係留時間は3時間から4時間程度で推移していた。



(グラフ9)1日ツアーのカヌー係留時間(最長・平均・最短)

b. 半日ツアー

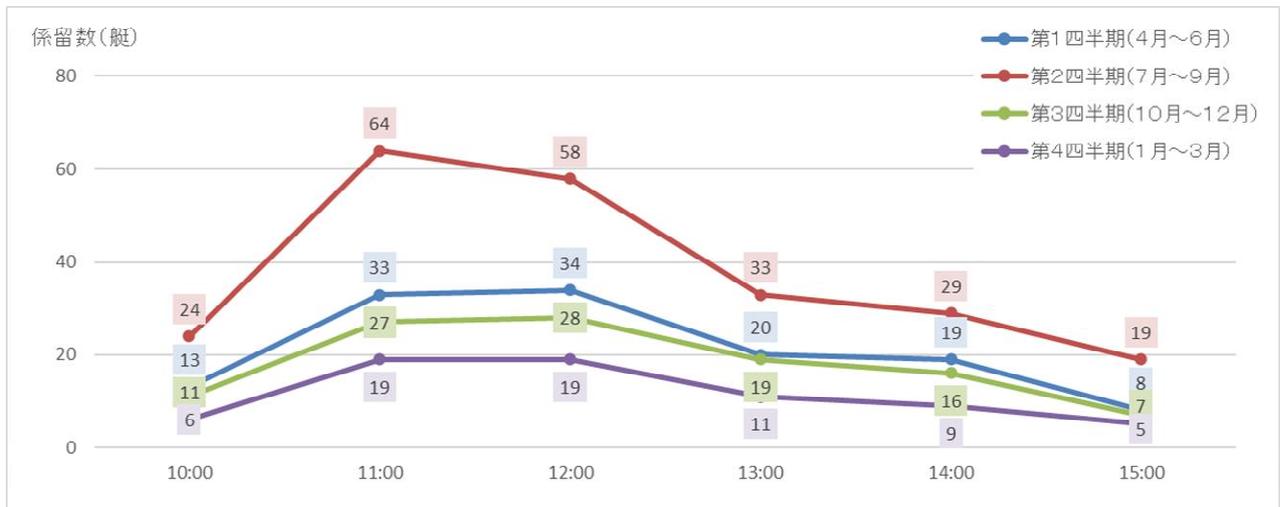
半日ツアーのカヌー係留時間について以下に示した(グラフ 10)。最長が5時間0分、最短が25分であった。半日ツアーではピナイサーラの滝壺へのみ向かうコースが組みまれており、平均係留時間は1時間30分程度で推移していた。



(グラフ9)半日ツアーのカヌー係留時間(最長・平均・最短)

c. 四半期別集計

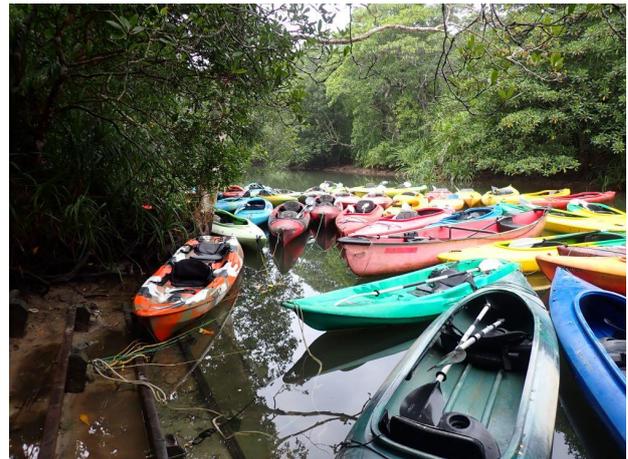
カヌー係留数の時間ごとの推移について、各四半期の平均をグラフ10に示した。どの時期も11時から12時にかけてカヌーが集中し、特に夏はカヌーで水面が見えなくなるほどであった(写真5・6)。



(グラフ10) カヌー係留数の時間ごとの推移



(写真5: R5.8.9 調査 11時頃)



(写真6: R4.8.29 調査 11時頃)

(2) 西田川

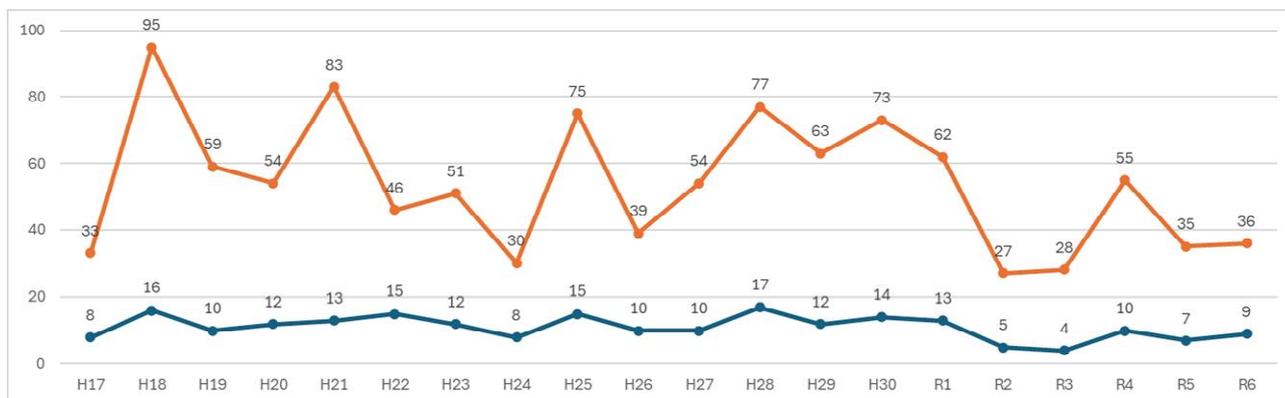
ア. 利用者数の推移

西田川では123回の調査を実施しており、聞き取りを行ったツアーの総数は220組、ツアーに参加した観光客の総数は1,075名であった。また、カヌーの総数は831艇であった(表5)。

調査年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
ツアー数	8	16	10	12	13	15	12	8	15	10	10	17	12	14	13	5	4	10	7	9	220
カヌー艇数	33	74	46	45	56	44	36	23	57	30	42	60	45	58	46	21	22	42	23	28	831
利用者数	33	95	59	54	83	46	51	30	75	39	54	77	63	73	62	27	28	55	35	36	1,075

(表5) 西田川の利用状況

ツアー数及び利用者数の推移についてグラフ11に示した。ツアー数は調査開始当初から令和元年までほぼ横ばいで推移しているが、利用者数は年度によりバラツキが大きく、増減を繰り返しながら推移していた。



(グラフ11) ツアー数及び利用者数の推移

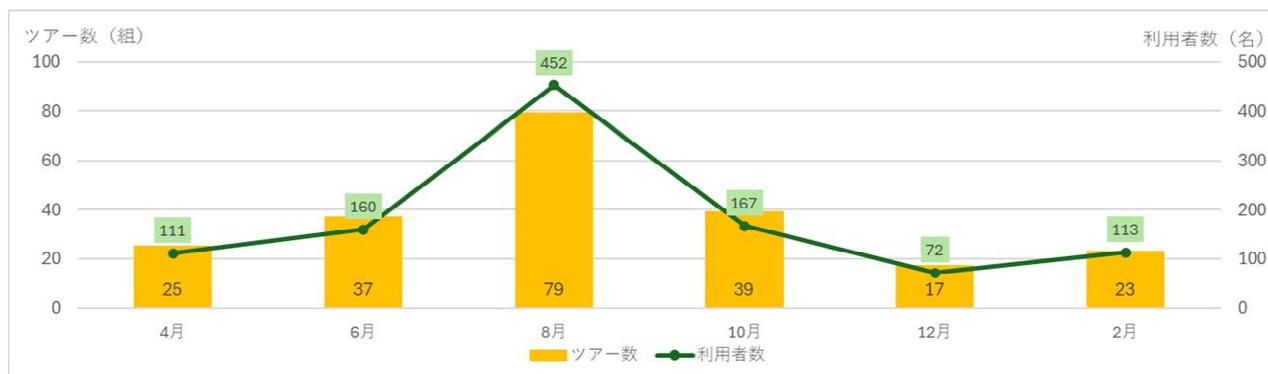
a. 月ごとの利用状況

月ごとの利用者数・カヌー艇数及びツアー数を以下に示した(表6)。

	4月	6月	8月	10月	12月	2月	計
ツアー数	25	37	79	39	17	23	220
カヌー艇数	91	130	328	132	58	92	831
利用者数	111	160	452	167	72	113	1,075
ツアー平均人数	4.4	4.3	5.7	4.3	4.2	4.9	4.9

(表6) 月ごとの利用状況集計結果(西田川)

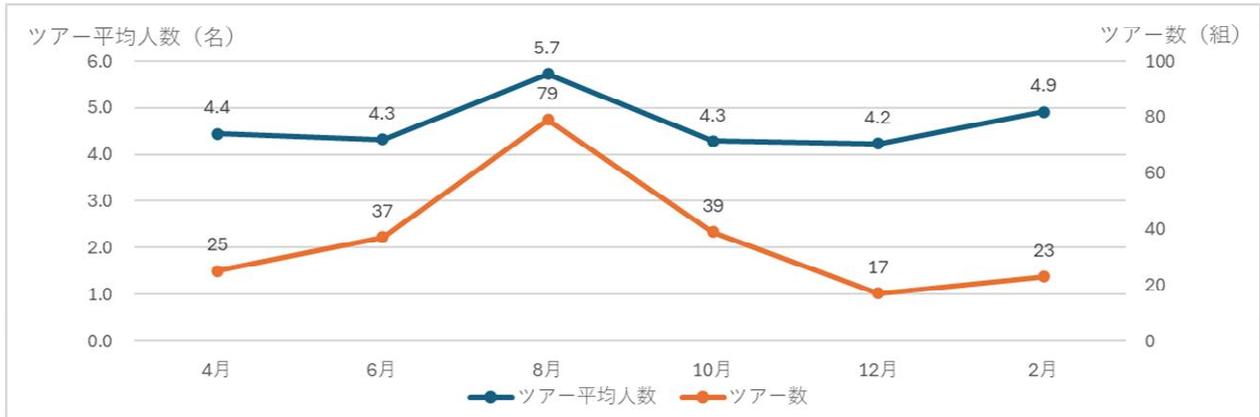
8月が突出して多く、利用者数が452名、ツアー数が79組となった。最も少ないのは12月で利用者72名、ツアー数17組であった。利用者数・ツアー数についてはヒナイ川と同様に夏休みや冬の気候の影響が考えられる(グラフ12)。



(グラフ12) 月ごとの利用者数およびツアー数

b. ツアー数及びツアー平均人数

ツアー平均人数は最大となる8月が 5.7 人、最小となる12月が 4.2 人であり、ツアー数・利用者数と同様に8月が突出して多かった(グラフ13)。

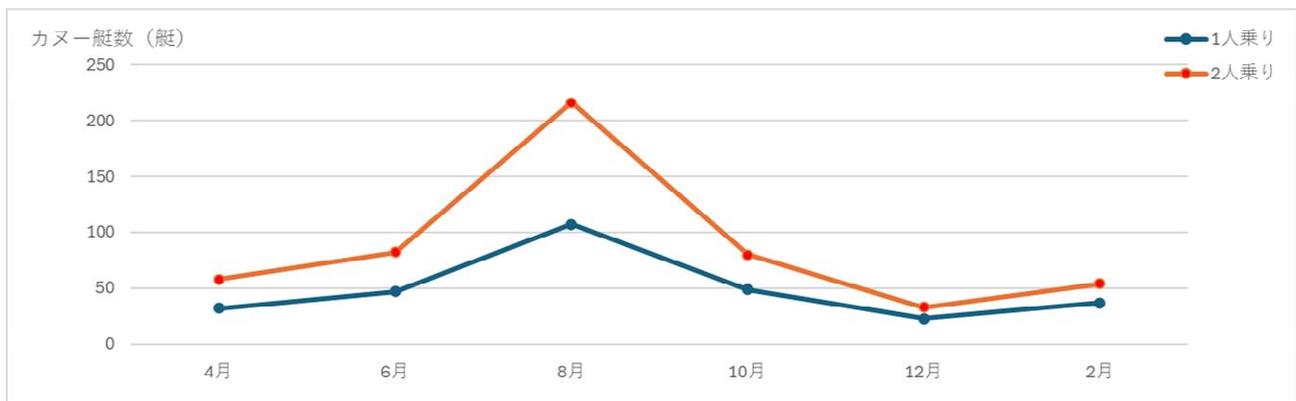


(グラフ13) 月ごとの利用者数およびツアー数

c. カヌーの種類

1人乗り・2人乗りのカヌーの数についてグラフ14に示した。

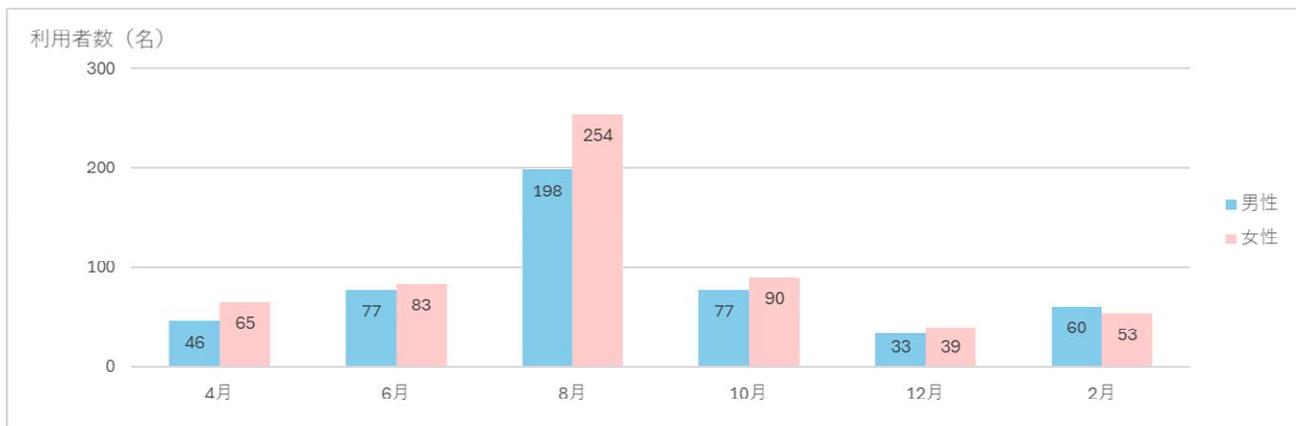
ヒナイ川と異なり、西田川では年間を通じて2人乗りのカヌーの数が多かった。また、8月は2人乗りのカヌーの数が著しく増加していた。



(グラフ14) カヌーの種類別

d. 利用者別内訳(性別ごと)

月ごとの利用者数について、男女別に集計したものをグラフ15に示した。8月は特に女性の割合が多いが、それ以外の月に関しては明確な差は見られなかった。



(グラフ15) 男女別の利用者数

e. 利用者別内訳(居住地別)

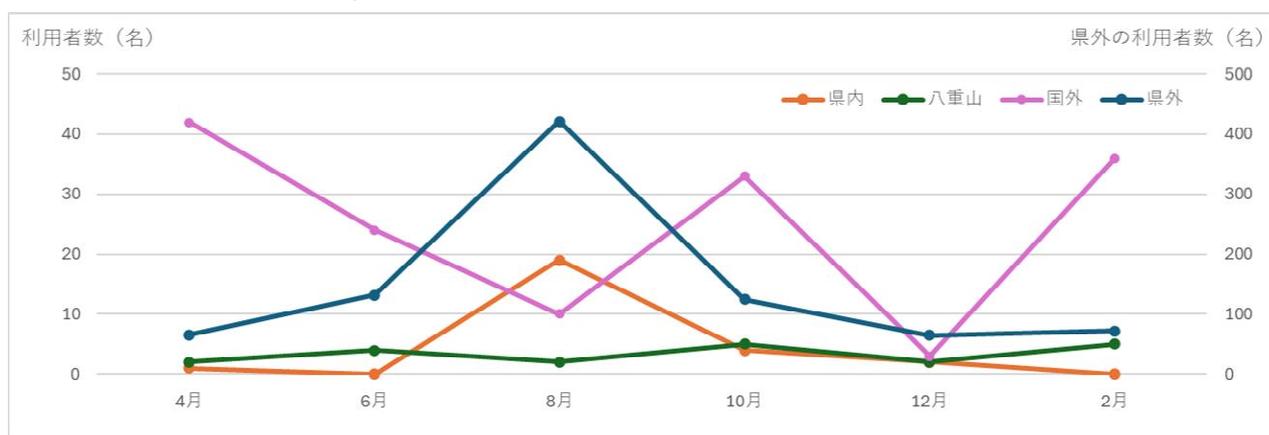
居住地別の利用者数について集計したものを以下に示した(表7)。ヒナイ川ではほとんどが県外利用者であったが、西田川については国外の利用者の比率が比較的大きく、全利用者の約14%を占めていた。理由としては近年は SNS による情報により国外から訪れる利用者も多く見られ、ピナイサーラの滝とサンガラの滝の知名度の差や、国内の利用者と国外の利用者の自然の楽しみ方の違いが考えられる。

		4月	6月	8月	10月	12月	2月	計
利用者数	県外	66	132	421	125	65	72	881
	県内	1	0	19	4	2	0	26
	八重山	2	4	2	5	2	5	20
	国外	42	24	10	33	3	36	148
	計	111	160	452	167	72	113	1,075

(表7)居住地別の利用者数集計結果

f. 利用者の月ごとの傾向(居住地別)

県外・県内の利用者については8月に集中していたが、国外の利用者については時期によるバラつきが大きかった。また、八重山の利用者はどの月も低調で推移しており、特定の月には集中していなかった(グラフ16)。



(グラフ16)居住地別の利用者数

4 まとめ

ヒナイ川・西田川ともに利用者が夏に増加し、特に8月は他の月に比べ利用者が大幅に増加する傾向にあったことから、夏休み期間の学生や家族連れの利用者が増えているものと考えられる。また、12月から2月にかけては利用者が減少するが、これは北風が強く吹き、実気温よりも寒く感じられる西表島の冬の気候によるものと考えられる。

ヒナイ川は県外から多くの利用者が訪れており、新型コロナウイルス感染症の影響で一旦は利用者が減ったものの、令和4年度は前年度に西表島の世界自然遺産登録が決定したこと、夏に新型コロナウイルスの感染拡大が一旦落ち着いたことから過去最高の利用者数を記録しており、令和5年度には新型コロナウイルス感染症に関する規制も緩められたことから、今後も多くの利用者が訪れることが予想される。

西田川についてはヒナイ川に比べると利用者数は少ないものの、国外の利用者の比率がヒナイ川よりも大きく、近年は外国人観光客が増えていることから、今後利用者が増えることが予想される。

ヒナイ川・西田川については令和6年8月に特定自然観光資源に指定され、令和7年3月1日より、ヒナイ川では1日当たり200名、西田川では1日当たり100名の入域制限がかけられることとなった。入域には事前申請を行い竹富町長から承認を得る必要があり、この事前申請により利用者数等の把握が行われることから、当センターで平成17年度から実施していた入込調査は終了することとする。

入込調査は令和6年度をもって終了するが、今後も当センターでは地元や関係機関と連携しながら西表島の国有林の適切な利用、また、西表島の貴重な自然の保全に努めることとする。

最後に、これまで当センターの入込調査に協力いただきました西表島カヌー組合のガイドの皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。

令和7年3月28日

西表森林生態系保全センター

